

ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

北海道は梅雨が無いと言われていますが、今年の6月は雨の日が多かったですね。いよいよ本格的な（短いですが）夏に突入です。楽しい夏にしたいですね。さて今回は過敏性腸症候群の話です。消化管の病気には、癌や潰瘍のように見た目に変化が確認できるような器質的疾患と、検査では異常が指摘されないような機能的疾患があります。過敏性腸症候群は後者です。ですから検査で、癌や潰瘍あるいは炎症がないということを確認しないと、本当は診断できない病気です。ただ必ずしも最初に全部の検査をしなければならないということでもありません。まずは薬で様子を見、その効果を確認しながら、検査をすることもあります。過敏性腸症候群の診断には、Rome III 基準が広く用いられています。「繰り返す腹痛もしくは腹部不快感が、過去3か月のうち1か月につき少なくとも3日以上生じ、その症状が下記3項目のうち2項目以上を伴う。」①排便によって症状が改善する。②症状の発現が排便頻度の変化を伴う。③症状の発現が便形状の変化を伴う。①は大便をしたら腹痛が改善する、ということです。②は排便間隔が長くなったり短くなったりということです。お腹が痛くないときは、毎日1回だったものが、痛みが出ることによって、3日に1回になったり、1日3回になったりすることです。③は硬い便になったり、軟らかい便あるいは下痢になるということです。

大楽毛 2-2-27 Tel64-6650 ちば内科クリニック院長 千葉 淳